

自然観察 NOW

NO : 67

野幌森林公園自然情報

発行：2022年11月5日

北海道ボランティア・レンジャー協議会

ホームページ <http://voluran.com/>



紅葉も終わり、葉が落ちてすっかり明るくなった森を散策するこれからの季節。落葉広葉樹の多い北国ならではの楽しみに、樹木の冬芽の観察と実を食べに集まる野鳥の観察がおすすめです。双眼鏡片手に、森の生き物の気配を感じながらゆっくりと歩いてみてください。

ナナカマド バラ科

街路樹にも多く植えられていて、真っ赤な実をたわわにつけるナナカマドは親しみのある樹木ではないでしょうか。9月頃から実が赤く色づくものの、すぐに鳥に食べられることがないのは、実の苦みと渋みが強いせいで、冬の寒さに当たって糖度が上がり苦みが減る年明け頃からは食べごろになるからです。ヒレンジャクやキレンジャク、ツグミの大群が一斉に食べつくしていくのを見たことがあるのではないのでしょうか？他にも、カラス、ヒヨドリ、ムクドリ、アトリ、シメ、カワラヒワ、ウソなどにも人気の実です。



ナナカマドの冬芽



ナナカマドの実



キレンジャク・ヒレンジャク



ツグミ

ホオノキ と キタコブシ モクレン科

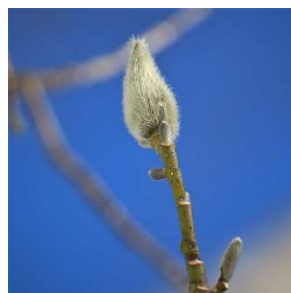
散策路に小指の爪サイズの朱色の実が落ちていたら、上を見てください。樹木の枝先で鳥に食べられるのを待っている赤黒い大きな袋果が見えるはずです。カラスやヒヨドリ、キツツキ類が硬い殻からつまみだしたりつついたりして食べるので、すぐに落ちてしまわないように短い紐が実の先についています。もし袋果ごと落ちているのを見つけたら中からそっと実を引っ張り出してぶら下がる様子を楽しんでみてください。実から、ほのかに良い香りもします。



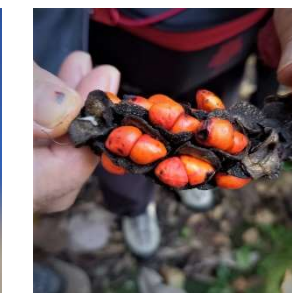
ホオノキ冬芽



ホオノキの袋果と実



キタコブシの冬芽



キタコブシの袋果と実

ハリギリ (センノキ) ウコギ科

今年大豊作な、ハリギリの小さな黒い実は、鳥に大人気です。大木になるこの木を見つけるには、深い切れ込みがひし形に見える特徴の樹皮を目印に探してみてください。見上げたら、大小さまざまな鳥が食べているかもしれません。カラス、ヒヨドリ、アカゲラ、ウソ、イカル、ツグミ、キジバト、カラ類などに会えたら、じっくり観察してみてください。



ハリギリの冬芽



ハリギリの樹皮



ハリギリの実



アカゲラ

ヌルデ ウルシ科

雌雄別株で、雌株に実が房状につきます。この実は、塩味のある成分を含んでいるので鳥に大人気です。イカル、ヒヨドリ、アカゲラ、ツグミ、カラ類など。同じウルシ科のヤマウルシやツタウルシの雌株の実も人気で、色々な小鳥の群れがしばんでいるのを見たことがあります。



ヌルデの実



ツタウルシの実

シラカンバ カバノキ科

頭上からハラハラと細かい翼果が降ってきたら、マヒワやベニヒワ、ウソやハシブトガラが群れで食事中かもしれません。地上に一面に落ちている鳥形の果鱗が食事の跡だと教えてくれます。



シラカバの果穂とマヒワ



カツラの実

カツラ カツラ科

野幌森林公園にはカツラの大木がたくさんありますが、その雌株には、バナナ形の実がたくさん付いて、ウソやマヒワ、カラ類が、熱心に食べていたりします。

このほかにも、ミズキ、キハダ、アズキナシ、ヤドリギ、ツルウメモドキ、カエデ類などの実は鳥達に人気です。なかでもイチイ（オンコ）の甘くて赤い実には多くの鳥が集まります。しかしヤマガラはその赤い仮種皮をこすり落して中の種を食べています。おもしろいですね。

参考文献：「野鳥と木の实ハンドブック」文一総合出版 ・Wikipedia

写真提供：関久恵・吉田京子

(文責：宮津京子)

観察会予定

2023年 1月 8日 (日) 円山登山観察会 10:00~12:30 円山八十八か所登山口集合
3月 16日 (木) 森の中で春をさがそう 9:50~11:00 自然ふれあい交流館集合